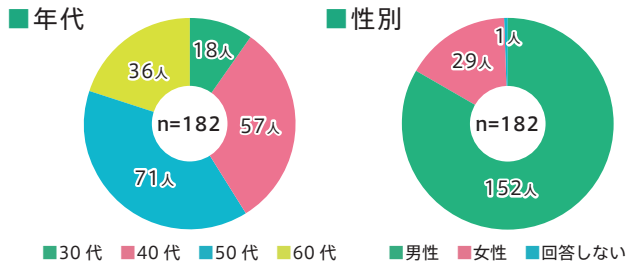


「2022年度 大学教員のワーク・ライフ・バランスに関するアンケート」実施

本学では、教員の意識・ニーズを把握し、より働きやすい職場環境を実現するため、2022年11月、専任教員277名を対象に「大学教員のワーク・ライフ・バランスに関するアンケート」をWEBフォームで実施しました。専任教員の66.4%、182名から回答が得られました。

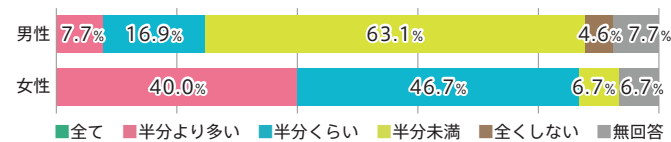
アンケート結果 (抜粋)

回答者の属性

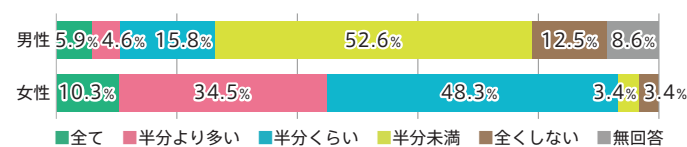


あなたはどのくらい子育てに関与していますか

高校生以下の子どもを持つ80名(男性65名、女性15名)の回答

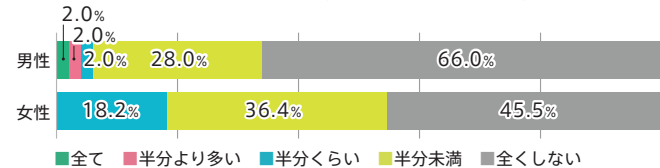


あなたはどのくらい家事に関与していますか。



あなたはどのくらい介護に関与していますか。

介護を必要とする身内がいる61名(男性50名、女性11名)の回答



自由記述 主なものをご紹介します

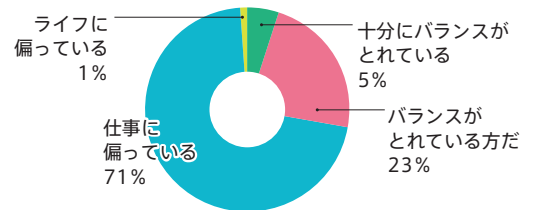
- 祝日や休日に勤務する場合、ベビーシッターの利用補助など検討してほしい。
- 夕方以降の会議を極力減らしてほしい。
- 相談窓口・サポート内容の詳細も周知するなどの積極的な情報共有が必要。
- 現在子育て中の教員の意見を聞く機関を作ってはどうか？
- 育児休業の取得者の前例を紹介してほしい。休業中に研究室の運営や担当講義をどのようにしたのかが分かれば取得しやすくなる。
- 事務作業効率化のための体制づくりと作業自動化のためのシステム導入ができれば、将来的な人件費削減にもつながるかと思う。このような体制を教職協働で作っていかなければならないと思う。

ワークライフバランスについて

睡眠時間を除いたおおよその時間配分について伺います。「仕事」「家事」「余暇」「その他」の合計を10とした時の割合をそれぞれ選んでください。



あなたのワークライフバランスを自己評価すると？



本法人の以下の「制度」や「相談可能な機関」について、知っている割合



まとめ

- 女性教員に比べて男性教員は、子育て／家事／介護に関与できていないことが明らかになりました。
- ワーク・ライフ・バランスの自己評価において、性別を問わず仕事に偏っているという認識が強い傾向にありました。
- ライフイベント時に利用できる各種制度についての認知度が低いことが明らかになりました。制度の充実に加え、周知方法の見直しが必要です。
- 夕方以降の会議や祝日授業・イベントの負担が大きいことがわかりました。→本調査結果を受けて、2023年度は夕方以降の会議が大幅に減りました。
- 保育に関するニーズが多く寄せられました。→ベビーシッター利用補助制度が2023年度に実現いたしました。

アンケート結果をもとに、一人ひとりが自身のライフイベントに安心してのぞめるよう、今後もサポート体制や環境の整備に取り組んでまいります。